

新生 北上中学校のスタート

子どもたちの未来を育む

新しい学びの拠点へ

教育環境のさらなる充実を目指すため、新たに北上中学校を整備しています。子どもたちがより良い環境で学び、成長できる学校づくりを目的としています。

新校舎の特徴

校舎・運動施設・プールを一体整備

現在の北上中学校のグラウンドに整備され、鉄筋コンクリート（一部鉄骨）造り3階建て、屋内運動場やプールが一体となった構造が特徴です。
メディアセンターを核とした

「新しい学び」の実現

学校の中心にメディアセンターを配置し、調べ学習・協働学習・ICT活用など、これからの学びに対応した柔軟な学習空間を整備します。

ICT活用に対応した広い教室

教室面積を現行の63㎡から71・36㎡へ拡大することで、タブレットや電子黒板などICT機器を活用した授業やグループ学習がより行いやすくなります。

太陽光発電で脱炭素化を推進

職員室などの管理部門の電力を太陽光発電でまかない、環境に配慮した学校運営を進めます。地域の脱炭素化にも貢献します。

新生 北上中学校に向けて

八重樫校長は「統合初年度という節目の年であり、新しい北上中学校が始まる。これまでの先輩が築き上げてきた北上中学校の伝統と31年の歴史を誇る東陵中学校の伝統が融合し、大きな力が生まれると確信している」と述べました。 八重樫 満 校長



八重樫 満 校長

生徒を代表し、小原さんは「本年度は東陵中学校との統合初年度であり、新校舎への移転もある。共にたくさんの思い出を作りたい。健康で協力して新しい北上中学校のスタートをきろう」と呼びかけました。



小原 莉菜 さん



本年度2学期に供用開始を予定している北上中学校のイメージ画像

この春、北上中学校と東陵中学校が統合し、新たな中学校が歩みを始めました。新校舎は現在建設中のため、始業式と入学式は北上中学校の現校舎を会場に、4月7日に開催されました。新入生を代表して鯉川由衣菜さんは「北上中学校の一員としての自覚を持ち、勉学に励み、部活動や学校行事にも積極的に取り組んでいく」と決意を述べました。



ありがとう 東陵中学校

31年の歴史に幕

東陵中学校の閉校式は3月21日に行われ、地域とともに歩んだ31年間の歴史に幕が下りました。

平成7年の開校以来、1757人の卒業生を送り出した東陵中学校。4月からは北上中学校と統合し、その思いは新たな学びの場へ受け継がれていきます。



ことほ 心葉 さん

別れは出会いの始まり 次のステージへ

生徒を代表し、岡本さんは「共に歩んだ全校生徒81人で多くの経験を重ねてきた。生徒数が少ないからこそ学年の壁がなく、全校のつながりが深かった。4月からは新たな環境へ進むことになるが、別れは出会いの始まり。この学校で過ごした時間を宝物に、新しい場所で自分の可能性を広げていきたい」と思いを語りました。

東陵中で育った心をこれからの道へ

中村校長は「同校は31年間の歴史に幕を閉じることとなった。皆さんはこの学びやで多くの人に励まされ、さまざまな経験を積んできたと思う。感謝の気持ちを忘れず、恩返しと恩送りの心を大切に、それぞれの道を堂々と歩んでほしい。これからも一生懸命に、かっこよく成長していくことを願っている」と生徒へエールを送りました。



なかむら けんじ 校長

東陵中学校で過ごした日々を胸に

